

九戸城 岩手県二戸市福岡字城内

九戸政実（くのへまさぎね）の4代前光正（みつまさ）が明応年間（1492～1501）に築城した。天正8年（1580）三戸南部当主の24代晴政（はるまさ）が死去。晴政の死後、南部家は跡目を巡り混迷の中、信直が南部26代目を継ぐ。

天正18年（1590）、豊臣秀吉は小田原城攻略後、秀次を総大将とし主な武将が名を連ねた奥州仕置（九戸征伐）が開始される。小田原不参陣の諸氏を追放するが、仕置軍が去ると残党が蜂起し不穏な状況となり、奥州再仕置軍6万騎が馬淵川流域に到着し籠城する約5,000人と対峙する。上方軍は九戸氏菩提寺の和尚を使者に政実の武勲を称え婦子女や下級武士の助命を条件に和議を勧告、政実はこのをのんで開門するが、これは謀略で九戸城はあえなく落城し政実らは処刑された。これにより、秀吉の国内統一は完了し九戸城は豊臣流の城に改修される。信直はこの城を福岡城と改め盛岡に本拠地を移すまで居城とし慶長4年（1599）この地で死去した。その後、元和年間（1615-1623）ごろに信直の子・利直（としなお）が盛岡に本城を移し福岡（九戸）城は寛永13年（1636）に廃城となった。（パンフ、説明版）



九戸城の概略説明版



九戸城を取囲む参戦した武将の配置図



同城の石柱



同城の特徴である土塁(石垣)と堀が長く続く



二の丸搦め手門から本丸の虎口へ





本丸の土塁と石垣



今も続く発掘作業(多くの場所が立入禁止)